

THAILAND ECONOMIC UPDATE May 2021

ศูนย์วิจัยกสิกรไทย
KASIKORN RESEARCH CENTER



3月のタイ経済は緩やかな回復基調

▶ 要点

- ▶ 2021年3月のタイ経済回復は緩やかな回復基調にあります。景気をけん引しているのは、民間投資、個人消費、および工業生産でした。また、輸出は、貿易相手国の需要が拡大を受け、多くの物品項目が回復を続けています。
- ▶ 2021年4月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比 3.41%上昇し、14ヶ月ぶりにマイナス成長からプラス成長になりました。その主な要因は、石油と、生鮮食品の価格上昇のほか、政府が新型コロナウイルス感染症の流行で影響を受けている国民の生活支援として実施していた電気料金の引き下げが終了したことによります。一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比 0.30%の小幅な上昇で、前月と比べ横ばいとなりました。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の第3波の流行によって、再びタイ景気回復が遅れると見込まれます。よって、カシコン・リサーチセンターは、2021年のタイの国内総生産(GDP)成長率の予測を従来の2.6%から1.8%に下方修正しました。
- ▶ カシコン・リサーチセンターは、2021年のタイ新車販売台数が新型コロナウイルス感染症の流行第3波の影響で前年比1.5%減から3.5%増の78万~82万台に停滞するとの予測しました。ただ輸出がけん引し、自動車生産台数は26%増の180万台と伸長する見通しです。

▶ タイ経済の動向

2021年3月のタイ経済情報

タイ中央銀行が発表した2021年3月の重要な経済指標によると、タイ経済は12月の新型コロナウイルス感染症の第2波の発生以降、緩やかな回復基調になりました。民間消費・投資、工業生産、および輸出は徐々に改善に向かいました。

3月の民間消費は前年同月比1.8%上昇しました。政府による景気刺激策などが奏功し、耐久消費財が13.3%増、半耐久消費財が6.0%増となりました。しかしながら、旅行者の支出が71.1%減、サービスが2.9%減、非耐久消費財が1.8%減となりました。

一方で、民間投資は前年同月比5.7%上昇しました。機械・設備を中心とした資本財の輸入が18.3%増、商用車の購入が9.3%増、建材の販売

2021年3月のタイ経済指標成長率 (Y-O-Y: 前年比)



が3.2%増、国内の機械販売が5.0%増となった。建設認可を受けた土地の面積は9.9%減となりました。

3月の輸出は、前年同月比15.8%増の242億米ドルとなりました。貿易相手国の需要が拡大を受け、多くの物品項目が回復を続けています。このほか、電子製品の輸出はサイクルの好転による恩恵を受けました。

工業生産に関しては、前年同月比4.1%増となりました。国内外の需要が拡大したことが原因でした。また、観光業では、外国人観光客数が前年同月比99.2%減となりました。

これから先に、新型コロナウイルス感染症の第3波の流行によって、再びタイ景気回復が遅れると見込まれます。よって、カシコン・リサーチセンターは、2021年のタイの国内総生産(GDP)成長率の予測を従来の2.6%から1.8%に下方修正しました。

2021年4月のタイのインフレ率

商務省が発表した2021年4月のヘッドライン・インフレ率は、前年同月比3.41%上昇し、14ヶ月ぶりにマイナス成長からプラス成長になりました。上昇率は過去8年4ヶ月で最大となりました。大幅に上昇した理由として、石油と、生鮮食品の価格上昇のほか、政府が新型コロナウイルス感染症の流行で影響を受けている国民の生活支援として実施していた電気料金の引き下げが終了したことによります。

品目別にみると、食品・飲料部門は前年同月比0.40%増でした。調味料が3.43%、果物・野菜が3.25%、肉・魚が2.35%上昇しました。一方、米・粉製品は6.74%、卵・乳製品は4.77%下落しました。一方で、非食品・飲料部門が前年同月比5.34%上昇しました。とりわけ、運輸・通信は、10.21%上昇しました。

一方で、振れ幅の大きい生鮮食品とエネルギーを除くコア・インフレ率は、前年同月比0.30%の小幅な上昇で、前月と比べ横ばいとなりました。

図1: 民間消費及び民間投資(成長率:前年比)

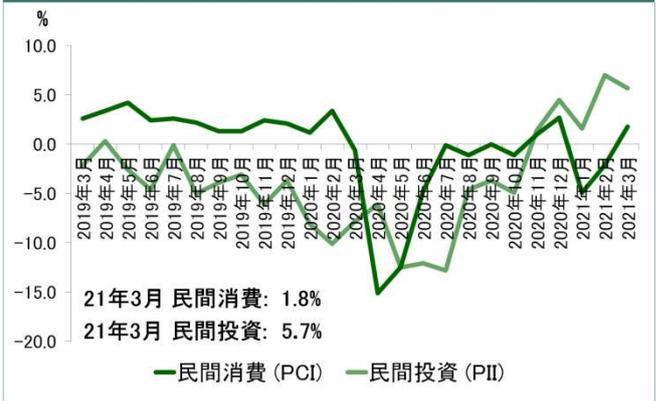


図2: 輸出、工業生産、外国人観光客数(成長率:前年比)

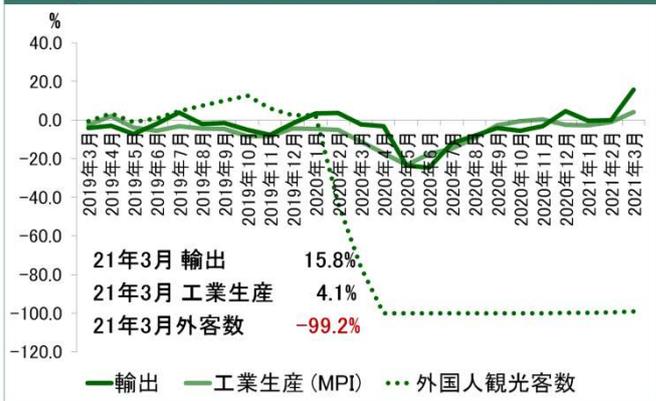


図3: ヘッドラインインフレ率及びコアインフレ率

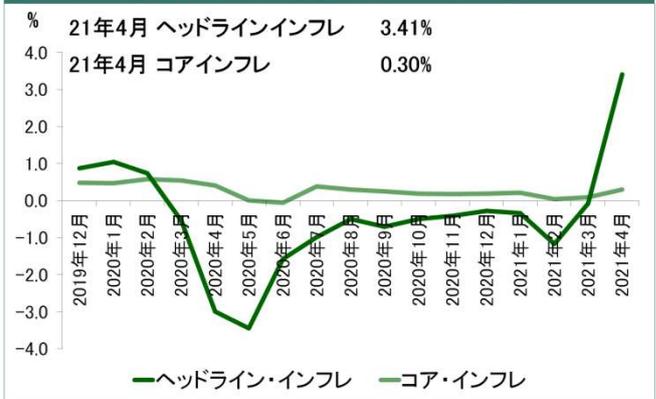


図4: 食品・飲料と非食品・飲料の価格



出所: タイ国中央銀行、タイ国工業省、タイ国観光・スポーツ省、タイ国商務省

今年の新車販売、第3波で最悪 1.5%減予測

カシコン・リサーチセンターは、2021年のタイ新車販売台数が新型コロナウイルス感染症の流行第3波の影響で前年比 1.5%減から 3.5%増の 78 万～82 万台に停滞するとの予測しました。ただ輸出がけん引し、自動車生産台数は 26%増の 180 万台と伸長する見通しです。

カシコン・リサーチセンターは、第3波が過去2回と比べて感染者死者数ともに深刻で、将来の収入への不安が高まり、ぜいたく品に位置付けられ自動車は影響を受けると指摘しました。新車販売台数への影響は第2四半期(4～6月)になるほか、経済活動が昨年末に

発生した第2波まで回復するには時間がかかるの見方を示しました。最も大きな影響を受ける車種は、中間所得者以下が主な購入者の小型乗用車と見込まれます。

一方、自動車生産は、輸出先の経済回復や日系メーカーのタイ工場の輸出拠点化などにより、好調に推移する見通しです。世界的な半導体不足により国内メーカーが4万4,000台程度減産する可能性があります。通年の生産台数への影響はないと予測しました。

図5: 2021年タイ国内新車販売台数の予測

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間
2020年	200,064	128,576	206,125	257,381	792,146
2021年	189,093	150,000～155,000	195,000～212,000	246,000～264,000	780,000～820,000
前四半期比 (%QoQ)	-26.5%	-18.0%～20.7%	27.9%～39.0%	20.9%～29.7%	
前年同期比 (%YoY)	-5.5%	16.7%～20.6%	-5.4%～2.9%	-4.4%～2.6%	-1.5%～3.5%

出所: カシコンリサーチセンターの予測

Disclaimer

This research paper is arranged for public information, which has been obtained from sources believed to be reliable. KResearch does not warrant its completeness, reliability or accuracy for commerce or fitness for a particular purpose. The information contained herein may be subject to change at any time without notice. Reliance upon any information contained herein shall be undertaken at a user's own risk KResearch shall not be liable to any user, or anyone else for any damage occurring from the use of any content herein. Nothing in this research paper shall be counted as containing any advice, recommendation or opinion for decision making in business.